

年頭の
ごあいさつ



医療・福祉・介護に関する問題解決、 保険医の権利と生活を守るため 責任ある活動を進めていきます

一般社団法人茨城県保険医協会 会長 宮崎 三弘

明けましておめでとうございます。平成最後の新年をご家族とともに過ごされたことと存じます。日頃より協会の活動にご理解、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

新春早々、茨城県保険医協会会館が完成いたします。念願だった自前の事務所を持つことが出来ました。諸先輩方がこのために蓄えていた資金があったため、これまでの家賃より少ない返済額で賄うことができます。これが可能になったのも、法人化したことにより協会として不動産取得が可能になったことが大きかったと考えます。自前の会館を持つことにより、これまで見えなかった新たな経費も発生しますので、役員と事務局員一丸となって適正な予算執行に務めます。お近くにおいでの際はぜひお立ち寄りください。

昨年は地震、豪雨や台風などの災害が多発しました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。異常気象は常態化し、40度を超える酷暑もめずらしくなくなりました。私たちは予想を超える自然の猛威にどのように対処していくかが問われています。

本庶佑先生がノーベル医学生理学賞を受賞されました。免疫チェックポイントの解明と、阻害薬によるがんの免疫療法への臨床応用が高く評価されました。オプジーボ（ニボルマブ）は切除不能な悪性黒色腫、非小細胞肺癌や腎細胞癌で優れた効果が認められています。一方、このオプジーボは高額であることが問題となりました。薬価の低減化が図られたものの保険財政を脅かすことが懸念されました。本来、保険診療は共助が基本であり、制度化された相互扶助です。ごく少数の人が一人当たり何百人分かの保険料に

相当する給付を受けるような医療は想定されていませんでした。今後、抗がん剤を中心に高額な薬剤の発売が続くようです。保険診療の存続の上からも、限られた財源を効率的に活用することが求められ、適正な保険診療のあり方を啓発する必要性を感じています。高額な医薬品の使用については、使用可能な医師や施設の基準を設け、適正使用を厳格に管理したうえで、保険とは別枠の給付制度が必要と考えます。

茨城県保険医協会は、一般社団法人としてより責任ある活動を進めています。昨年、国民民主党の県内議員団の申し入れにより、茨城県の医師数や偏在の問題について学習会を実施しました。協会としての提言をお伝えし、県や国への働きかけを依頼しました。今後とも与野党を問わず、医療や福祉・介護などの関連する問題や保険医の権利や生活を守る活動に限定し協働していきます。協会として政治活動や特定の政党を支持することはありません。

会員数は常時2,100人を超えるようになりました。保険診療研究会などには高い関心が寄せられ、保険医協会ならではの保険診療の問題や医療の質の向上を目指した独自の研究会を全県的に開催し、さらなる会員増につなげたいと思います。県北や鹿行地区の医療の現状は深刻であり、医師会や各団体と協力し、この地域での日常臨床に直結した情報提供に力を注ぎます。生活を守るための充実した共済制度の加入を含め新規会員獲得に結び付けたいと思います。

今年一年、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。